

アルフッダより(2020年7月)



園芸療法の実践的教育研究のための花壇や施設を備えた「園芸療法ガーデン」(本年 5 月)

「まちづくりガーデナー」とは

平田 富士男

淡路景観園芸学校には、「景観園芸専門課程(兵庫県立大学の大学院課程として設置)」「園芸療法課程」および「生涯学習課程」の三つの課程があります。そのうち生涯学習課程の中心的コースが「まちづくりガーデナー・コース」で本科、マスター、テーマの3つのコースを持っています。今春、受講を申し込まれた皆様は、この3つのいずれかのコースに申し込まれていたと思います。

本校が、このようなコースを設置したのは、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、1999年に開校していることに由来します。私たちが震災を経験して学んだことに「人と自然の共生の実現」があります。その実現には、専門家だけではなく、市民ひとりひとりの取り組みが不可欠です。被災地兵庫県としては、自然環境を代表するもののひとつである花と緑をつうじて自然と共生するまちづくり、地域づくりを实践あるいは、リードしていく人材をこの学校で育成しようと考え、「まち

づくりガーデナーコース」として設置しました。1999年の開校以来、これらの各コースからのべ7,800人を超える県民の皆さんが巣立っていき、県内のみならず、県外にも広がっているいろいろな活動を展開されています。このような生涯教育を行い、そしてその修了生が幅広く活躍している学校は全国を見ても他にはないでしょう。このようなまちづくりガーデナーを目指す皆さんと、早く本校でいっしょに勉強できることを心待ちにしています。



みんなで楽しく授業・実習を行っています

6月に予定していた実習・講義を紹介します

本科コース：花と緑の栽培実習

－庭のデザインと花壇の施工－

田淵美也子、三木直樹、上村公浩

4月に種を播き、5月にポットへ植え替えをしたジニアやビンカなどが、6月になるとだいぶ大きくなってきます。花壇への植え付けの時期です。

まず、田淵先生から花壇のデザインについての講義を受けます。一般的な整形的花壇や模様花壇では、少ない種類でコントラストをつけたシンプルなデザインにします。最近では、ボーダーや寄せ植え風のものをよく見かけますが、この場合は、色彩や質感、形状などに注意してメリハリをつけることが大切です。ここで詳しくは書ききれませんが、このようなコツは、ご自身で花壇をデザインする時にきっと役に立つことでしょう。

では、いよいよ植え付け実習です。植込みの準備として緩効性の肥料を鍬ですき込み、レーキで整地します。次に、田淵先生から

具体的にデザインするコツなどを教えてもらいながら、花苗のポットを並べていきます。そして、生長した姿を想像しながら最終チェックをし、植え付けます。

4月から始まった夏秋花壇の実習は、これで一旦終了です。例年でしたら、夏には綺麗に咲き誇る花壇を楽しみに、みなさん帰路に着かれます。今年は、コロナ渦で前期課程が中止となりましたが、花壇の施工は学校側で行います。7月中旬以降には見頃になると思いますので、機会があれば是非お越しください。



夏秋花壇の施工

本科コース：草花の病害虫防除

三木 直樹

草花や樹木、野菜などを栽培すると誰もが順調に育って欲しいと思いますが、必ず困らされるのが「病気」や「害虫」。対策が遅れるとボロボロになった、枯れてしまった、など悔しい思いをしたことはありませんか？

病気や害虫はなぜ発生するのか？原因は様々です。まず発生した時にどんな対処療法があるのか、知っておく必要があります。対処は早い方が効果は高いものです。目の前の被害への対策は、手で取り除く、水で洗い流す、農薬を散布するなどですが、特に農薬を使用する場合、「敵」の病害虫が何者かが分からないと期待した効果が得られないこともあり、症状の見極めと薬剤の選択がとても大切です。

特に植物の病気、例えば葉がしおれる、カビのようなものが生えるなど目に見える状態になった時にはすでに手遅れということ

も少なくありません。われわれ人間の健康管理と同じで「予防する」という視点がとても大切です。自分が栽培している植物にどんな種類の病害虫があり、どんな条件で発生するのかなどの性質を知り、予防対策を立てる。先手必勝なのです。

本科コースでは園芸植物の主な病害虫の種類や症状を知り、防ぎ、取除くという意味の病害虫「防除」を意識して実行するための手段と考え方を紹介します。花壇や菜園など日頃の園芸活動に応用してみてください。



マスターコース: インタープリター入門

林 まゆみ

まちづくりガーデナー・マスターコースでは春の良い時期にインタープリテーションに関する授業をしています。これは、自然を解説したり、一緒に体験したりするための、とても優れたプログラムです。

学内にある自然環境や庭園などを活用して、受講生がインタープリターになり、何か

発見できることや体験することを他の参加者の方々と共有します。左の写真は、環境修復ゾーンで、「何が観察できますか？」と問いかけたものです。「見る」だけではなくて、「触る」「嗅ぐ」「聞く」「食する」など5感をフルに活用して自然を楽しみましょう。フィールドは、自然地以外にも、花壇や樹木を使ったものや、多様な空間が使えます。

ざらざらの葉には水滴がたまりません。



環境修復ゾーンで体験しました



花壇で楽しむ自然体験です

それはなぜでしょう。色々な疑問がわいてきます。植物の仕組みや働きは興味深いものです。皆様もぜひ、緑地や公園でインタープリテーションを試してみませんか？

マスターコース: 昆虫採集と標本づくり

嶽山 洋志

標本は、その個体がその地にいたことを証明するとともに、その分布や生存の変化を追うことで最終的にはその個体を守るために活用されます。また標本を作る過程で、その個体との触れ合いを達成することが出来るとともに、じっくり観察する力も得られます。私の授業では昆虫を対象に標本づくりを行い、このような意義を感じ取ってもらうことを目指しています。まず標本づくりの前に昆虫採集を行います。捕虫網や吸虫管での採集から、誘引剤を入れた紙コップを地面に埋めて落とし穴の要領で捕獲するピットフォール、発酵させたバナナをネットにくるみ木々に吊るして捕獲するバナナトラップまで、多様な採集方法を体験します。採集した昆虫は観察します。刺す、かむ、吸う、なめるなど昆虫の口の形は色々です。誰もが捕まえたことがあるバッタだと、後脚の付け根付

近にある耳や、3つある単眼や、翅と後脚を擦り合わせて発音の構造などを観察します。そして採集した昆虫、もしくは事前に準備した昆虫を使って標本づくりを行います。情報を多く得られるよう翅を広げたり、すくんだ脚を伸ばしたりと、翅や脚の形を整えます。また先に記したように分布や生存の変化を捉えるためにも、いつ、どこで、誰が捕獲したものがわかるラベル情報は必須です。1週間ほど乾燥させて標本箱に移して完成となります。



コラム ヤギ除草の実証実験しています

守 宏美

淡路景観園芸学校のキャンパス内で2月からヤギ除草の実証実験を行っています。

なぜヤギ除草？

私は、淡路景観園芸学校に来る前は、兵庫県の土木事務所で、河川敷や公園、道路の緑地の管理を担当していました。毎年伸びる雑草を刈払い機で刈って、トラックで運んで、さらに焼却をするという過程で、多くの化石燃料を毎年消費していることに疑問を感じていました。そんな中、地元の方から、昔は身近にヤギがいて、河川敷などの草は飼料としてヤギに食べさせ、ヤギ乳を利用していたという話を聞きました。昔、雑草は貴重な資源だったのです。

ヤギ除草のブーム到来!?

近年、ソーラー発電の除草や獣害対策としてヤギ除草の導入が増えてきています。先日、東京のビルの間でも、フェンスで囲われた開発予定地でヤギ除草をしているのを見かけま

した。

淡路景観園芸学校のヤギたち

ユキちゃんとコユキちゃんという親子のヤギがキャンパスで除草中です。ヤギの世話は研究科の学生を中心とした「ヤギ部」のメンバーが担っています。実証実験をしながら、ヤギによる効率的で効果的な除草方法やヤギ除草後の植生変化などを検証しています。

キャンパスにお越しの際は、ぜひユキちゃんたちに会いに来てくださいね。



はたらくユキちゃん親子

へこの歯でバリバリ食べます

植物の癒しを使うプロになる！ 「園芸療法課程」学校説明会のお知らせ

現代の日本では、国民の健康に関して、ストレス、介護予防、障害者の自立促進などがキーワードとなっています。

園芸療法は、心地よい緑のある環境、五感を刺激する植物、栽培活動、植物を用いた創造活動、園芸活動に参加する人がもたらす相互作用を活用して、人の健康回復や生活の質の向上をめざす療法です。

この度、令和3年度生（全寮制：1年間・通学制：2年間）の募集に伴い、学校説明会を開催します。

日程：①8月30日（日）13:15～
②9月26日（土）13:15～

また、各日程の午前中に園芸療法体験講座「緑を用いたストレス・ケア入門」があります。緑の景観や植物を用いた癒しを体験する内容です。ご興味がありましたら、是非ご参加ください。

日程：①8月30日（日）9:45～12:10
②9月26日（土）9:45～12:10

受講料：5,937円（税込）
申込締切：①8月20日（木）
②9月15日（火）

お申込み・お問い合わせ先：普及指導課
電話：0799-82-3455 FAX：0799-82-3124

* 感染症予防の観点から、募集定員が削減される場合もあります。また、応募者多数の場合は、抽選となります。



心地よい緑の環境が人を癒す



植物が人を癒す



栽培が人を癒す



創造活動が人を癒す



人が人を癒す

